

# 国語科授業展開モデル

学習活動	指導上の留意点	ねらい
<b>導入</b> <b>課題の共有</b>	① 適切な時期に、授業のめあて・課題を明示する。 教師だけでなく児童生徒も1時間の授業の見通しを持つ。 ② 必要に応じて、前の学年及び校種で学習した内容を想起させる場面を設ける。 ・既習事項の確認。 ・今後どのように発展していくのかを把握。 ③ 45(50)分のレイアウトを知らせ、ゴールを児童生徒がイメージできている。単元によっては学習者に学習計画を立てさせる等する。	① 学習者がしっかり目的意識や課題意識を持って授業に臨み、主体的な学習態度を育成できる。 ② 関連する学習内容を想起させることにより、授業内容の習得がよりスムーズになる。 ③ 「何を」「どうやって学ぶのか」がわかれば学習者は「安心して」「主体的に」学びに向かえる。
<b>展開</b> <b>★学習の必然性</b> <b>自力解決</b> <b>じっくり考え豊かに表現</b>	④ 「思考・判断・表現」の能力を育成するため、適切な言語活動を行う。 ・付けたい力を確実に付けるための最適な言語活動を選択する。 ・その時間の学習目標が達成・課題の解決ができるような言語活動を行う。 ・言語活動例をもとに児童生徒の実態を踏まえて設定する。 ⑤ 自分の考えを形成する。その際以下のような工夫をすると良い。 ・考える手がかり(視点・順序)を示す。 ・使用する「既習事項」「学習用語」を示す。 ・視覚的なものを示す。・物を操作させる。 ・考える時間を保障する。・思考ツールを活用。 ・自分の考えを書くことによって整理させる。 *書くポイント* ・接続語を適切に使う ・考えをたどった順に ・考え・意見とそれを裏付ける根拠を入れる。 <b>★常に論理的に!</b>	④ 教科の特性や発達段階に応じ適切な言語活動を設定することで、「思考・判断・表現」の能力が育成できる。 ※「指導目標」が明確な言語活動。 ⑤ 学習者は「考える手がかり」がきちんとあることによって思考が容易になる。また考えは書くことによって整理され、確かなものとなっていく。 ※視覚化(図式化・映像・写真) ※思考ツールの活用
<b>集団解決</b> <b>価値の共</b> <b>★教師が生徒達の発言を関係づけていく</b>	⑥ 「交流」では「話す・聞く」の確かな基盤が育成されていること。「対話力」の基礎が身についていること。 <b>★他者との議論や助言をしあう等協同的活動</b> ⑦ 対話の過程に新たな気づきが生まれればそれもわかるようにノートに記録。(自分の感想・つぶやきや友達の発言も) ⑧ 習熟度に応じて適切な指導を行う。 ⑨ 課題に対する答えを、「学習用語」を使ってまとめる。(呼応関係) ⑩ 授業のめあてや学習活動に対して視点を持たせて振り返りを行う。(呼応関係)	⑥ 「交流」を契機に「考え直す」「深まり広がりを実感」「新たな考えの創造」をめざす。そのことによって学習者も交流の良さが実感できる。 ⑦ 子どもたちの視野を広げ、思考をサポートするツールとしての板書を工夫する。また、発達段階に応じて自分の考えや友達の考えを入れるノート等も工夫する ⑧ 適切な場面で「学習者の理解度」を把握し、支援することで全ての学習者に学力を保障する。事前に「評価規準」をもとにした「ABCの判断基準」を明確にしておくことで、より具体的な支援計画を立てることができる。
<b>終末</b> <b>まとめ・振り返り</b> <b>★これまで安易に信じていた自らの見方考え方を再考が促される。</b>	⑨ 課題に対する答えを、「学習用語」を使ってまとめる。(呼応関係) ⑩ 授業のめあてや学習活動に対して視点を持たせて振り返りを行う。(呼応関係) <振り返りのポイント> ・学習内容を振り返る(学習した知識・技能はどんなことか) ・繋がりを振り返る(既習事項との繋がり) ・生かし方を振り返る(家庭や社会にどのように生かすことができるか)	⑨ 学習用語(その時間に指導すべきこと=身につけるべきこと)を使ってまとめることで、学力の確実な定着となるように。 ⑩ 「振り返り」は、児童生徒が自分の理解したことを整理する為の学習活動。この振り返りが「学びに向かう力」を変える。「メタ認知能力」の育成にもなる。

※全体を通して学習規律の徹底が図られている。※全ての学習者に「学力保障」する手立がある。 ※受容的な学級風土がある。

「型」にこだわらず、「教科の特性・単元の展開」を踏まえ「この授業によって育まれる思考・判断・表現の能力」等を意識し、「子ども達の変化」をよく見て、あなたの授業をあなたが創りましょう!